

2024.02

No. 32

工
藝

事務局（地独）京都市産業技術研究所 知恵産業融合センター（担当：松原 竹浪）

kyotonokogei@tc-kyoto.or.jp

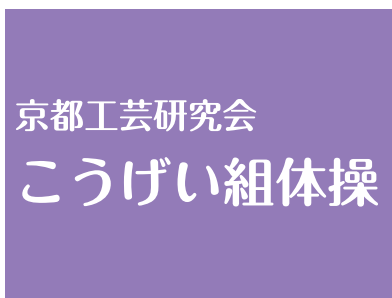
〒600-8815 京都市下京区中堂寺粟田町 91

Tel 075-326-6100（代表） Fax 075-326-6200（事務局）

京都工芸研究会便り

1. こうげい組体操 まもなくデビュー！

異業種コラボによる製品開発事業「こうげい組体操」は京都ギフトショーでの展示に向け、ラストスパートに突入しました。LINE グループなどでコミュニケーションを密に取りながら様々なコラボが展開され、約 30 アイテムがデビューする予定です。本状に招待状を同封いたしましたので、3月6・7日の京都ギフトショーではぜひ皆様に京都の工芸の新たな可能性をご覧いただきたく、心からご来場をお待ちしております！



こうげい組体操とは

概要 工芸研究会内外の異業種が、技術や素材などのコラボレーションで新商品を開発する事業。

ねらい 異業種交流を活性化させてお互いの理解を深め、ものづくりの可能性を広げる。

第5回京都インターナショナル ギフト・ショー

2024年3月6日(水)・7日(木)

京都市勧業館みやこめっせ 3階

2. 事業企画チーム「ロング・インタビュー」第四回を公開しました！

事業企画チームではベテランの会員さんに、工芸の技術・素材・道具だけでなく、これまでのあゆみについてじっくりとお話を伺う「ロング・インタビュー」を行っております。第一回の小川進様から始まり、片岡行雄様、大塚正洋様と続く連載。今回は松田聖委員長を特集しました！若い頃のエピソードや工芸への熱い想いを語っていただいた保存版です。誌面には抜粋を掲載いたしますので、全文はテキストサイト「note」をご覧ください！

第四回：松田 聖 様（鋳金具）



編：鋳職人としての創業は、文化6（1809）年とのことで、聖さんで八代目なのですね。

松田：ええ、祖父に聞いたところ、三条白川近くに300年以上続くお寺があって、そこに初代・鋳屋金五郎のお墓があります。元々は、忠臣蔵の頃に赤穂から浅野家家臣として京都へ来て、四十七士になれず、しばらく職人として身を隠しているうちに、いつの間にか職人になったらしいです。そして、明治になって元々の姓の「松田」に戻したそうです。

編：京都の伝統的な企業は代々お名前を襲名されることが多いですが、鋳屋松田さんはお名前の襲名は、されないのですか？

松田：しませんね。だって“金五郎”だったら笑っちゃうでしょ（笑）。

（中略）

松田：仕事は、紹介していただいたらその方に迷惑はかけられないし、仕事はしっかりしないとね。鋳屋っていうのは、金属に関する全てのことをできなければならないのですが、どうしてもできないことは仲間の力を借りたり、同業と補い合う繋がりも大切です。それこそ人間関係ですわ。本当に人ですよ。良い人と巡り会わないとね。私は「出会いの『あい』は、『愛』である」という言葉が好きなんです。いろんな人との出会いがあって、初めて自分が生かされているって感じかな。人との出会いがあってその後に仕事は付いてくる……か、わかりませんが（笑）仕事は縁があったらついてくるものだと思います。（後略・一部抜粋）

全文はテキストサイト「note」をご覧ください！

「note 京都工芸研究会」で検索 または右のQRコードにて



第四回

3. 京都七宝協同組合のリブランディング



京都七宝協同組合の理事長でもある会員の野村ひろみ氏（有限会社ヒロミ・アート）が同組合をリブランディングするため、発酵食堂カモシカ・ルーペデザイン）とのマッチングを行いました。

組合員からのヒアリングにより、京七宝の価値を可視化するための課題を抽出し、その結果をもとに京七宝のブランドメッセージ、ロゴを提案。昨年12月、組合主催の展示会にて「美意識の継承」というキャッチコピー、ロゴとコミュニケーションセンテンスがお披露目されました。

事務局より

◆2024年2月～の主な予定

3月6日・7日 京都ギフトショー